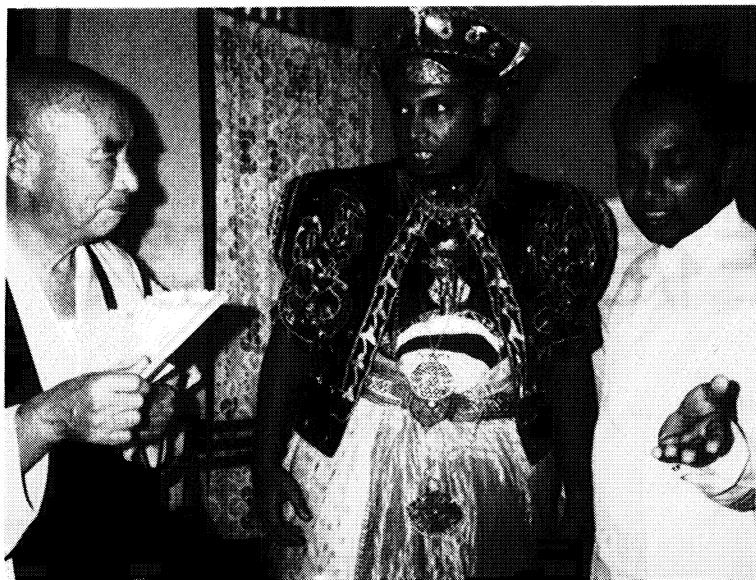


○現在の主な役職

・曹洞宗宗議会議員・同会議長

・駒沢大学理事

・東北福祉大学理事
・東京グランドホテル取締役



スリランカの高官と会談する筆者（左）

ツバキのことなどは全く知らなかつたが、ドイツのケンペルという方が、一六九〇年に日本に来て、長崎から江戸に行く途中、見たことのない美しい花があるので、スケッチをして、花の種と一諸に、ロンドンの博物館に送つたところ、欧洲では全く無い花なので、カメリヤ、ジャポニカと命名した。つまり日本の花ということで、ツバキの種はイギリスに始まつて、イタリアに渡つては、歌劇「椿姫」となり、イギリスの植民地である米国や豪洲に渡つて、花を咲かせたのである。春になると、日本中至るところに咲いている花が、日本の花だとは知らないかつたのである。日本人は、島国根性といわれるよう、狭い国に住んでいるところから、広い視野に立てないようである。

「禅」というものは、欧洲には全然ない概念なので、大変興味を持たれているが、そこに「脚下照顧」という語がある。足もとを見よ、汝自身を知れということであるが、人はとかくすると、遠い彼方に目を奪われやすいが、それよりも、身近なものをよく知り、極めなければならないというのである。福島には「家のぼたもちうまくない」という慣わしがある。家でつくったぼたもちはうまくなくて、隣の家のぼたもちはうまそうだというのであるが、これではいけないので、自分の家のもののかが分るように工夫すべきである。日本がこんなすばらしい国になつた背景には、日本のよさというものがあつたのである。外国のことを知るのは大事だが、日本の善さを充分理解する必要がある。こうなれば、日々是れ好日と言つて、その日その日が楽しく、明るく生きてゆかれるのである。

